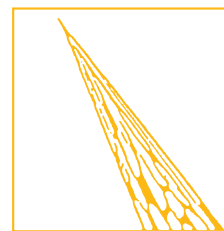




Liaison



(ホームページ <http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp>)

Vol.32 Jul. 2007



本号のみどころ

- 新図書館長のご挨拶
- 「SIPRI年鑑 日本語翻訳版2006」刊行について
- 『今中文庫目録』出来
- コースリザーブ・サービスについて
- 図書館利用者アンケート報告

Hiroshima University Library

Liaison

vol.32
Jul.2007

目 次

○目 次	2
○図書館長就任のご挨拶	図書館長 田中 久男 …… 3
○「SIPRI年鑑：軍備、軍縮及び世界の安全保障（ストックホルム国際平和研究所）」 日本語翻訳版2006の刊行について	諸富 秀人 …… 4
○図書館の新たな取り組み	
●誕生1周年を迎える 広島大学学術情報リポジトリ（HiR）	尾崎 文代 …… 7
●『今中文庫目録』出来	藤川 功和 …… 8
●コースリザーブ・サービスについて	諸富 秀人 …… 9
○海外研修報告	
●イリノイ大学モートンソンセンター2006年 国際図書館員研修プログラム	庄 ゆかり …… 11
○平成18年度図書館事業報告	
●図書館利用者アンケート報告書	山根 博 …… 14
●広島大学図書館インターンシップ実施報告	江森 早穂 …… 16
●地域交流プラザ企画展示報告	長尾真理子 …… 17
●講演会・シンポジウム等	…… 18
●主要行事等報告	…… 20
○広島大学図書館統計	…… 23
○トピックス	…… 24

図書館長就任のご挨拶

図書館長 田中 久男



5月21日付けで、浅原利正学長より、図書館長という大役の辞令を頂きました文学研究科の田中久男です。私の専門はアメリカ文学で、この3月までウィリアム・フォークナー協会の会長を務め、去年より日本アメリカ文学会の会長に就任しておりました、定年まで研究者、教育者としての生活を全うするつもりでおりました。ところが思いもかけず、図書館長という重い職を賜り、勤務スタイルの拡大と方向転換を迫られることになりました。

しかし、学長より、「学生のために、教職員のために汗をかけ」という訓辞を受け、4半世紀にわたり私を育ててくれた広島大学への恩返し、ご奉公ということの大切さも深く認識しまして、今は内面、静かに大いに燃えているところでもあります。これまでは気楽にサービスを受ける側から図書館を見ておりましたが、これからはサービスを提供する責任ある立場から図書館を見なくてはならなくなりました。しかし幸いにも、わが図書館には、高度な専門知識や技能を持っている有能な職員がたくさんいることを知り、大変心強く誇りに思っています。そして位藤前館長のご尽力で、時代のニーズに合わせたさまざまな変革が推進され、方向が示されてきました。

大学の知の顔は図書館だと言われます。どの大学に行っても、まず本部の建物と図書館の建物が目に付きます。私は旅行して大学を訪れるとまず図書館に寄りますが、そのときに受ける

印象が、大学全体についての印象や評価につながるがよくあります。広島大学は4館1分室体制という、全国でも有数の大きな所帯の図書館を抱えていますし、広島高等師範学校時代に始まる100年以上の伝統を引き継いでいて、稀こう本の類や貴重な文献資料がたくさん所蔵されています。この伝統をありがたく思い、蔵書を文化的な共有財産として大事にしながら、また同時に、急速にテクノロジーが進歩する情報化時代に即応した図書館の機能を、大学構成員の皆さんから知見を拝借し、学外の諸機関との連携と情報交換を緻密にすることで、質量ともにいっそう充実させていきたいと念じております。そのためには、書籍等の印刷体のハード面と、電子ジャーナルや電子ブックのようなリポジトリのソフト面とのダブル機能を充実させたハイブリッド型の図書館の整備・充実が急務です。知の継承と変革・進化という姿勢は、社会文化の恩恵を受けているわれわれ人間の務めでもあります。とりわけ今日の図書館に期待され要求されている任務でもあるだろうと思います。この目標を絶えず念頭におき、広島大学の研究・教育の成果を世界に向けて発信できるように、その能力の発掘・強化のお手伝いをする中心点でありたいと願っております。

一方、図書館の伝統的な不変の役割は、学習、教育、研究の促進・活性化を陰に陽にサポートすることにより、世界のトップレベルの研究拠点としての総合大学を目指す広島大学の知的な伸展をバックアップすることですが、今日ではそれだけでなく、地域とスクラムを組んで、住民の生涯学習のお手伝いし、また文化の振興に寄与するという開かれた図書館として、社会的使命を果たすことも期待されています。こうした図書館の役割を質量ともに充実したかたちで遂行できるよう、骨を折って努力して参りたいと思いますので、図書館に対する皆様のご理解と大いなるご支援、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

「SIPRI年鑑：軍備、軍縮及び世界の安全保障 (ストックホルム国際平和研究所)」 日本語翻訳版2006の刊行について

諸富 秀人

(学術情報整備課長)

1. SIPRIについて

SIPRI (Stockholm International Peace Research Institute) スtockホルム国際平和研究所は、国際平和及び安全保障について科学的研究を行い、国際紛争の平和的解決及び安定した平和の条件理解に寄与する目的で、1966年に創立された独立性の高い国際平和に関する研究機関です。SIPRIは、研究課題である世界の軍需産業、軍事支出、武力紛争、地域安全保障、平和維持、紛争の平和的解決のさまざまな側面を監視し、収集した豊富なデータを評価・分析し、それを年鑑（オリジナル言語は英語）として刊行することにより、全世界の研究者、政策決定者等が世界状況を理解するための情報を提供しています。収録された情報はもとより、SIPRIの研究者による評価及び分析も非常に高く評価されています。

2. SIPRI年鑑日本語翻訳版刊行の経緯

広島大学は、1950年11月の開学式において森戸辰男初代学長が、「自由で平和な一つの大学」を建学の精神とし、世界と日本の平和に対する責任を明示しました。その精神は、広島大学理念五原則の一番目に「平和を希求する精神」を掲げて今日まで受け継がれています。平和を希求する精神は、人類が最初に原子爆弾の被害にあった広島に存する広島大学全ての構成員の思考と行動の根底にある精神です。

今日に於ける国際紛争、軍縮、安全保障の主要な問題に対する情報収集力と分析力が高く評価されるSIPRI年鑑の日本語翻訳事業を遂行するに最もふさわしい者は、平和を希求する精神を理念とする広島大学において他にないと言えます。広島大学では、この理念を具現化する具体的行動として、この度SIPRIと年鑑の日本語翻訳版の刊行について合意し、SIPRI創立40周年記念号にあたる2006年版を翻訳刊行することになりました。また、この合意は、SIPRIが作成し無料公開している世界各国の紛争や軍備の状況などに関するデータベースであるFIRST (Facts on International Relations and Security Trends) の日本語化を、SIPRIとの共同構築事業として2005年から進めている広島大学図書館がコーディネートした成果と言えます。

本事業は、広島大学における教育・研究に資することのみならず、広く全国の大学等における国際政治や平和学に係る教育・研究の進展に寄与することが期待され、その意義は非常に大きいものです。同時に、ヒロシマの地に存する大学として、平和を希求する精神と国際平和への貢献を世界にアピールすることになり、広島大学のブランド力と知名度を高めることも期待されます。

3. 刊行委員会の設置

本事業は、広島大学図書館が企画し、牟田前学長を始め大学執行部の理解と協力を得て広島大学の事業として位置付け、役員会の下に設置された平和希求委員会の下に広島大学図書館長を委員長とする「SIPRI年鑑日本語翻訳版刊行委員会」を設置して実施しています。事務局は、

図書館に置かれSIPRIとの連絡調整、翻訳、校閲等刊行事業における事務的な事柄は図書館内に設置した平和学コレクション委員会が担当しています。本年鑑は、極めて専門性の高い内容を持ち、その刊行には慎重の上にも慎重を期す必要があるため、翻訳及び校閲に長い時間を要しましたが、本年7月の刊行を目指し最終校正の段階までたどりついたところです。

4. 2006年版について

SIPRI創立40周年を飾る本年鑑は、国際的な平和安全保障上の、新しく複雑な問題への応対を求めて、所長の指揮の下、研究スタッフがあげてきた多大なる功績をまとめたものです。SIPRI年鑑創刊時からの特徴である、研究の優れた質と高い専門性を、この日本語翻訳版により広範な人々の学習及び研究等に貢献できるものと期待しています。

2006年版の内容は、以下のとおりです。3部構成となっており、これ一冊で世界の軍事・軍縮、紛争及び平和構築の試みの有り様が解る内容となっています。

第Ⅰ部 安全保障と紛争、2005年

- 第1章 欧州大西洋の安全保障と制度
- 第2章 主要武力紛争
- 第3章 平和構築：アフリカに集まる新たな国際的関心
- 第4章 21世紀初頭における地域的安全保障協力
- 第5章 核兵器の国内管理：機会と制限

第Ⅱ部 軍事支出と軍備、2005年

- 第6章 兵器のライフサイクルにおける透明性
- 第7章 軍事支出データ：過去40年の概観
- 第8章 軍事支出
- 第9章 兵器生産
- 第10章 国際的な武器移転
- 第11章 宇宙空間における欧州の集团的取り組みの持つ安全保障的側面

第Ⅲ部 不拡散、軍備管理および軍縮、2005年

- 第12章 軍備管理の継続性と変化に関する考察
- 第13章 核軍備管理と核不拡散
- 第14章 化学兵器および生物兵器戦における進展と軍備管理
- 第15章 通常兵器の管理
- 第16章 移転管理

5. おわりに

SIPRI年鑑の日本語翻訳版は、東海大学が1985年から5年間、ついで、メイナード出版が1994年から2年間に限り刊行しています。今回の広島大学による刊行は、実に11年振りのことで、非常に意義深いことだと思います。オリジナルの英語版の利用は、概ね研究者に限られ、学生や一般市民には遠い存在でしかありませんでしたが、日本語に翻訳することで初心者から専門の研究者まで多くの人の関心を集め、その学習や教育・研究に多に貢献できるものと思います。

冷戦後も地域や民族及び宗教間の紛争が絶え間なく続く今日の国際状況の中で、本年鑑の日本語翻訳版は、まさに、待ちに待たれた刊行と言えます。

ヒロシマの地に存する広島大学によるSIPRI年鑑日本語翻訳版刊行事業がこれからも長く継続され、世界平和の維持と増進に貢献できることを心から念願するものです。

なお、本年鑑は、広島大学消費生活協同組合に販売を委託しています。お求め頂く際は、下記にお申し込みください。

今日における国際紛争，軍縮，安全保障の主要な問題に対する
情報収集力と分析力で高く評価されている**SIPRI**年鑑の日本語版

SIPRI年鑑 2006

軍備，軍縮及び世界の安全保障

ストックホルム国際平和研究所【編】
広島大学SIPRI年鑑日本語翻訳版刊行委員会【訳・編】

世界の軍事情勢を収集・分析
待望の日本語版ついに完成

広島大学出版会

定価 21,000円(税込み)

ISBN 9784903068077

2007年7月刊行予定

発行

広島大学出版会

739-8511 東広島市鏡山1-3-2 (082)424-5881

gakujoyutu-zaimu@office.hiroshima-u.ac.jp



広島大学

●お問い合わせ・ご注文は下記へ●

広島大学消費生活協同組合北1コープショップ
375-8511 東広島市鏡山1-3-2
電話(082)423-8285 FAX(082)423-8280
Hiroshima@ma5.seikyoku.ne.jp

図書館の新たな取り組み

誕生 1 周年を迎える 広島大学学術情報リポジトリ (HiR)

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/>

尾崎 文代

(学術情報整備グループ 学術情報リポジトリ主担当)

本学の機関リポジトリである「広島大学学術情報リポジトリ (HiR)」が、平成18年4月の試験公開（同10月正式公開）から1周年を迎えました。

この1年間、図書館では、博士論文の登録依頼を目的とした各研究科訪問、紀要編集委員会への登録依頼、先生方への科研費報告書・ジャーナル論文の個別依頼、ワークショップでの発表等の広報活動を行ってきました。その結果、ご提供いただいた研究成果等のコンテンツ数はスタート時の約1,500件から5,300件に伸び、既存のコレクション画像5,600件と併せて1万件を超えるリポジトリへと成長することができました。これも学内の皆様のご協力の賜物と感謝しております。

また、主題別ブラウジング、部局別ブラウジング、ダウンロードランキング、詳細画面からのナビゲートなど、インターフェイスの機能追加・改善も行いました。ご意見をいただければ幸いです。

機関リポジトリを取り巻く国内外の状況はまさに日進月歩であり、世界の機関リポジトリ稼働件数は2006年7月の704から1年間で904にまで増加しました。国内の件数も22から2倍の48に増加し、国立情報学研究所による国内機関リポジトリ横断検索エンジンの開発⁽¹⁾、14の研究開発プロジェクトの進行⁽²⁾、機関リポジトリコミュニティの創設⁽³⁾など、機関リポジトリの活性化に繋がる事業が進められています。

HiRでも今後、コンテンツ収集を拡大させるとともに、広島大学経営戦略データウェアハウスとの連携開発を始めとした、コンテンツの活用法にも重きを置いた事業を展開していきます。

HiRで登録公開された論文・紀要・会議資料・講演資料などを他サイトからのリンクリソースとして活用することで可視性を増大させ、また特に、これまで入手の難しかった教育研究成果をオープンアクセスにすることにも力を入れていきたいと考えています。

是非、コンテンツをご提供ください。

今後とも学内の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

●お問い合わせ先●

図書館学術情報リポジトリ主担当（内線 東広島6228）
tosho-seibi-repo@office.hiroshima-u.ac.jp

注：

(1) <http://juniplus.csc.nii.ac.jp/>

(2) <http://www.nii.ac.jp/irp/info/2007/partners.html#ryoiki2>

(3) <http://drf.lib.hokudai.ac.jp/>

『今中文庫目録』 出来

藤川 功和

(尾道大学芸術文化学部 講師)

平成18年12月に、『今中文庫目録』が広島大学出版会より刊行された。これは広島大学図書館研究開発室の主業務 — 自館収蔵の特殊コレクションの整理並びに目録作成に基づくものである。今中文庫は近世広島藩関係の文書を中心に構成されており、本目録が刊行されることによって広島藩政の研究がさらに進展することが期待される。目録の構成は以下の如くである。

今中文庫目録 —近世今中家と広島藩— の刊行に寄せて	位藤 邦生
[序文] 今中文庫の世界	藤川 功和
今中家系図並びに今中大学年譜	
今中家関係主要文献 —写真と解説—	
今中家の歴史	今中比呂志
近世後期の今中家と広島藩 —今中文庫収蔵資料を用いて—	藤川 功和
目録篇	
A分類 記録・文書	B分類 典籍
C分類 今中家関係文書	
資料篇 —今中家関係主要文献翻刻—	

目録は、現在広島大学生協北1 コープショップにて絶賛(?) 販売中。是非一度手にとってご覧いただきたい。写真に示した如く今中温(いまなか・おん)による雷鳥の画が目印である。また、同店では通信販売も受け付けている。お問い合わせは、広島大学消費生活協同組合 北1 コープショップまで(TEL 082-423-8285 b-kitaichi@ma1.seikyou.ne.jp)。

なお、刊行記念の講演会を、平成18年12月14日に中央図書館ライブラリーホールで開催した。当日の来場者は130名余りを数え、地元の歴史に関心を寄せる方が少なくないことを実感するとともに、今中文庫が今後も地域貢献に資すること大であることを確信した次第である。

なお、稿者は既に広島大学図書館を離れているが、今回は特別に目録刊行について雑文の掲載をお許しいただいた。謹んで深謝申し上げる。



『今中文庫目録』表紙

コースリザーブ・サービスについて

諸富 秀人

(学術情報整備課長)

大学図書館の基本的な機能の一つに、「学生に対する学習及び教育支援」があります。このため、大学図書館は当該大学における教育方針と連携して学習及び教育用資料を収集・提供し、また、学習のためのスペース等学習環境を整備することで学習の「場」を提供しています。

広島大学図書館では、学生の皆さんの学習を支援するため毎年多くの図書や雑誌を購入して図書館に配架しています。しかし、その全てが学生の皆さんのニーズにマッチしているとは限りません。多くの大学図書館は、活字離れが心配される学生の皆さんの図書館あるいは図書館資料の利用を促進する方策を模索し、試行錯誤している状況です。図書館と教育機関との連携強化方策も重要な課題です。大学における授業体制の改善は、教育改革の柱の一つであり、図書館としてこれにどのようにコミットするかは、図書館の学習及び教育支援活動を推進するために極めて重要な問題です。図書館を評価する指標の一つに、「授業に密着した学習支援サービスが実施されているか」があります。広島大学図書館では、こうした状況に対応するため、また、学習支援の有効な強化策として2007年4月よりコースリザーブ・サービスを導入しました。2007年度前期授業を対象とした、コースリザーブ備え付け資料は別表のとおりです。

コースリザーブ・サービスは、日本ではまだなじみがありませんが、米国の大学では、授業と連携した一般的な学習支援サービスとして広く実施されており、学生の授業理解を向上させる有効な制度としての実績があります。本サービスは、教育を担当する教員と図書や雑誌などの学術情報を収集・保存・提供する図書館が連携して学生の皆さんの学習を支援するサービスです。授業の理解を深める上で是非読んで欲しい、あるいは参考にして欲しいと思う資料を教員が選び、学生の皆さんがいつでも利用できる「場」としての図書館に配置しています。

○コースリザーブ・サービスの対象となる資料

- ・ シラバス掲載図書等履修に必要な図書や視聴覚資料
- ・ 雑誌の論文
- ・ 講義ノート、プリント等教員作成資料
- ・ その他、授業関連資料

当該授業を担当する教員が指定したこれらの資料が対象となります。

○コースリザーブ・サービスの利用方法

コースリザーブ資料は、中央図書館1階（新着雑誌コーナーの南側）のコースリザーブ専用ボックス内に、授業科目単位で配架しています。利用後は、元のボックスに返却してください。図書及び視聴覚資料の複本部数は、当面最大5部までとしています。

- ・ 利用できる者：当該授業科目に受講登録している者に限り利用できます。
- ・ 利用可能時間：開館時間内において館内でのみ利用できます。館外貸出はできません。受講生の皆さんが利用できるように、1人で長時間占有しないでください。
- ・ 利用統計：利用の状況を把握するために、「コースリザーブ備え付け資料利用記録簿」を、専用ボックスの扉に設置しています。利用の都度、この「記録簿」にチェック「✓」を記入してください。

○教員の皆さんへ、お願い

本サービスは、今、スタートしたばかりです。現在の本学における授業体制が図書館資料の利用をシステム化していない面もありますが、学生への学習支援を強化するために教員の皆様と連携し、本サービスの充実を図っていきたいと考えています。教員各位のご理解とご協力をお願いします。

ご意見・ご希望等ありましたら図書館の担当までお寄せください。

○学生の皆さんへ、お願い

コースリザーブ資料は、皆さんが受講する講座を開設している教員自身が、受講する学生の授業理解に役立つことを期待して指定した資料です。多いに活用され、授業理解が進展することを願っています。

2007年度前期コースリザーブ備え付け資料一覧

BOX 番号	講義コード	授業科目	教員名	リザーブ 番号	書 名 等	部数
1	B6721002	歴史学（東洋史）	岡 元司	1-1	シリーズ港町の歴史①「港町と海域世界」	1
				1-2	シリーズ港町の歴史②「港町のトポグラフィ」	1
				1-3	シリーズ港町の歴史③「港町に生きる」	1
2	NMQ20070	教育学	安原 義仁	2-1	イギリスの大学改革 1809-1914	5
				2-2	イギリスの大学 ―その歴史と生態―	5
				2-3	エリート教育	5
				2-4	高等教育の変貌	5
3	C1101915	初等体育科教育法Ⅰ	木原成一郎	3-1	教えと学びを振り返る体育の評価	5
				3-2	初等体育科教育の研究	5
				3-3	初等体育科教育	4
4	C3102605	古代国語文化研究A	佐々木 勇	4-1	徒然草： 細川幸隆本 上・下（勉誠社文庫35.36）	各1
				4-2	徒然草：烏丸本 上（勉誠社文庫38）	1
				4-3	版本絵入 徒然草（和泉書院影印叢刊26）	1
				4-4	徒然草抜書： 表現解析の方法（講談社学術文庫）	1
5	NMH10310	国語文化特講Ⅰ	佐々木 勇	5-1	日本語はなぜ変化するか： 母国語としての日本語の歴史	1
				5-2	日本語書記史原論 補訂版	1
				5-3	日本語の歴史：青信号はなぜアオなのか	1
6	P5013131	初等社会	下向井龍彦	6-1	歴史 / ジョン・アーノルド	5
7	CC240801	日本史概説Ⅰ	下向井龍彦	7-1	古代政治史における天皇制の論理	2
8	G6176111	計量経済学	山田 宏	8-1	計量経済学の基礎： 統計的手法の理論とプログラミング	5
				8-2	計量経済学	5
9	P5013131	エコノメトリックスⅠ	山田 宏	9-1	計量経済学の基礎： 統計的手法の理論とプログラミング	5

海外研修報告

イリノイ大学モーテンソンセンター
2006年国際図書館員研修プログラム

Fall 2006 Associates Program, Mortenson Center for International Library Programs, Illinois University

庄 ゆかり

(学術情報整備グループ 雑誌コレクションを担当)

国立大学図書館協会海外派遣事業により、イリノイ大学モーテンソンセンターで行われた研修プログラムへ参加して、半年以上が経過した。研修プログラムについては何度か報告する機会をいただいたので、ここでは概要と、特に印象に残る点のみ紹介する。

広島大学図書館では、海外の図書館と情報交換・派遣研修などを通して交流する機会がこれからさらに増えると思われる。図書館における国際交流について、私見を付記する。今後、何かの参考になれば幸いである。

1. 研修プログラム概要

モーテンソンセンターはイリノイ大学学部生用図書館の中にあるが、独立した組織である。教育レベルの向上・相互理解・平和の実現を目指すため図書館員に研修プログラムを提供し、図書館・図書館員の間に、地理的な距離やテクノロジーの発展程度にかかわらず連携関係を作りだし、それを強めることを目標に活動している。

今回私が参加した国際図書館員研修プログラム (Fall 2006 Associates Program) は、センターの代表的な研修プログラムである。毎年秋、世界各国から10数名の中堅図書館員が参加し、8週間のグループ研修を受ける。プログラムは図書館に関わるありとあらゆるテーマを網羅し、豊富で刺激的な内容となっている。

2006年度は、7カ国から17名が参加した。

2. 研修内容

研修には、大学院教官・センター講師による講義、イリノイ大学図書館の各業務説明、各種図書館関係団体によるプレゼンテーション、各種図書館見学、レクチャーや会議への参加を中心に、現地図書館員・関係者との交流、他機関での短期宿泊研修、参加者によるプレゼンテーション、プロジェクト課題などが含まれる。

毎年行われる研修プログラムであるが、講義等で取り扱われるテーマや担当する講師、またスケジュールと時間配分により、内容は変化する。2005年度参加者である峯氏 (明治学院大学図書館)、2004年度の梅澤氏 (中央大学図書館) の報告によると、過去2年は資金調達活動についてかなり時間が割かれたようだが、2006年度は組織とコミュニケーション・ネットワーキング・プロジェクト立案についての比重が高かった印象である。またセンター側では、グループ研修なので、各参加者の職業的背景や個性によっても研修の性格が変わると考えている。

参加者には研修内容の選択・コントロールは不可能である。むしろ、そのダイナミックさをプラスとして評価したい。

3. 図書館訪問

研修期間中、数多くの図書館を訪問した。それぞれに特色があり優劣はつけられないが、中でも印象に残る図書館をあげる。

Westerville Pubic Libraryでは、最新のトレンドを取り入れ、最先端の技術を駆使し、多角的なサービスを展開している。館内に本格的カフェやギフトショップを設置、各種のゲーム機と大画面TVを設置したコンピュータゲームルーム、ティーンがデザインし選書に参加するティーンセンター、ブログ・チャットなどのコミュニケーションツールの活用、絵画や美術品の展示と貸出、ドライブスルー窓口で行われる貸出返却サービスなど、図書館業務はここまで多方面に展開できるのかと目を見張った。

閲覧席の快適さを大切にしている図書館は多い。ソファや机の工夫にとどまらず、あたかも個人宅の書斎のように書架や壁がデザインされたIllinois Wesleyan UniversityのAmes Libraryや、出窓風の窓を利用し雰囲気のあるコーナーを作り出したUrbana Free Library、狭さの中で親しみやすい環境作りをしているUniversity High School Libraryなどが特に印象深い。イリノイ大学では、美しく伝統的な建物にアンティーク感すらただよう大型ソファ等を多数配置し、学生の学習スペースとして活用している。近年図書館では、情報化が進み、インフォメーションコモンズの設置などでコンピュータが広い面積を占め、また十分な所蔵スペースを確保するのに苦心している。その中で、落ち着いた読書・学習環境作りとの両立を目指す各館・大学の方針には見習うべきところがある。

4. 講義・実習

研修内容は多岐にわたり、特にテーマが設定されているわけではない。図書館業務関連以外では、組織または個人レベルでのコミュニケーションスキルに関連する講義が多かった。

毎年このプログラムで講義を担当されるウィーチ教授（イリノイ大学図書館情報学大学院）は、図書館にとってのネットワーキングの大切さや、管理職としての職員一人一人の個性に応じたコミュニケーション技術の具体例について講義された。また、自分の精神状態をポジティブに変革することで、職員の側から職場環境に余裕とやる気を生み出す手法などを紹介する講義と実習もあった。

納得したものもあれば、日本の職場環境にはなじみにくいと思われるものもあったが、職場の中・業務を遂行する上での工夫により職場環境を向上するということの必要性について、あらためて考えさせられる内容だった。

5. 参加者による情報交換

言語・文化の壁は厚い。この研修には世界各国から参加者が集まり、現地の図書館員も（講師等として）参加する。8週間にわたり、研修のみでなく生活もともにする中で、コミュニケーションに困難を生じ、また不満の声が聞かれる事もあった。

英語を国際標準語と認識すること自体への議論もある。今回の研修は、英語でのコミュニケーションが必須となっていたのだが、各人の英語には訛りやレベルの違いがあり、スムーズに理解できるわけではない。また、考え方や行動には文化的影響が大きく現れる。言語上理解できたとしても、内容理解のためには、さらに一歩進んだコミュニケーションが必要となる。しかし、その壁を乗り越えれば、全く違う視点や考え方を発見できる。この研修期間を通じて、国際社会における理解と協調についての難しさと面白さを体験した。

6. 総括

この研修において、多くのことを学び、自分自身についても考えた。より進んだ技術や考え方を知ることが大切である。しかし、情報を提供し、ともに学び、自館のみでなく図書館界全体としての向上を目指すこともまた重要である。

日本は技術先進国である。インフラストラクチャーが確立され、情報量は豊富であり、私たちは恵まれた環境の中で仕事をし、生活をしている。長期にわたり英語教育が行われ、流暢に話をするこ

はできないとしても、ある程度の基礎的理解力はある。これまでも言語の壁を越えて、先進的な各国から知識や情報を吸収してきた。

これからも積極的に学ぶ姿勢が必要である事に異議を唱えるつもりは全くない。しかし、日本はアジアの中で、また世界の中で、リーダーとなることを目指してもよいのではないだろうか。日本の図書館界においては、学ぶ側から、積極的に知識の共有をはかり刺激を与える側への転換をはかることが、今後の課題のひとつであろうと思う。

今回、海外派遣によりモータンソンセンターでの研修機会を与えてくれた国立大学図書館協会と広島大学図書館へ感謝する。特に、業務多忙の中、2ヶ月に渡る研修へ快く送り出してくれた中央館雑誌コレクション担当の畑野主査、山中さん、岡田さん、本当にどうもありがとうございました。



写真1 イリノイ大学キャンパス



写真2 講義風景



写真3 コミュニケーション実習中

平成18年度図書館事業報告

図書館利用者アンケート報告書

山根 博

(学術情報企画グループ 専門員)

1. 目的

利用者の満足度を調査し今後の図書館サービス展開の参考とするため、全学の図書館利用者を対象にアンケートを実施した。

2. 実施方法

平成19年1月10日(水)～2月9日(金)までの期間、図書館ホームページにアンケートページを作成し、利用者に回答を依頼した。利用者からの回答はメールで受け取り、集計を行った。利用者への回答依頼方法は以下の通り。

- ・学 生…「もみじ(掲示板)」にアンケート回答依頼文書を掲載
- ・教 員…各部局の部局長支援グループにアンケート回答依頼文書の送付を依頼
- ・教職員…電子掲示板にアンケート回答依頼文書を掲載

3. 回答数

- ・有効回答数—414件 ※全回答数—421件(無効回答—7件)
- ・利用者区分別回答数

	回 答		在籍者比回答率	
	件 数	構成率	在籍者数	回答率
教 員	108	26.1%	1,847	5.8%
学 部 学 生	174	42.0%	11,050	1.6%
大 学 院 生	92	22.2%	4,362	2.1%
事務・技術系職員	31	7.5%	1,365	2.3%
そ の 他	9	2.2%	-	-
計	414	100.0%	18,624	2.2%

注) 平成18年5月1日現在の本学在籍者数に対する回答率

注) 研究生、留学生等が含まれる

4. 反省点、改善すべき点

実施時期が1月から2月となってしまったため、学部生、大学院生の内最上級生の回答が少なくなっているのではないかと推察される。今後は実施時期を10月又は11月頃とする必要がある。

5. 回答結果概要

アンケートに回答した学部学生、大学院生の50%以上が週に2～3回以上図書館を利用しているが、図書館の情報環境、空調、コピー機、開館時間、開館日について不満が多くみられた。

・あなたは、次のどの図書館(室)を利用しますか。

回答者全体では、中央図書館(42%)、東図書館(15%)、西図書館(31%)、医学分館(7%)、東千田分室(4%)となった。

・あなたは、図書館をどの程度利用していますか。

回答者全体では42%の人が図書館を週に2～3回以上利用している。中でも割合が高いのが学生で、学部学生(58%)、大学院生(50%)が図書館を週に2～3回以上利用している。

・あなたは、図書館資料のうち、次のどれを充実すべきだと思いますか。(複数選択可)

回答者全体では、専門教育関連図書の充実をあげた人が最も多く(29.3%)、次いで電子ジャーナル(16.0%)となっている。教員と大学院生がこの2つの図書館資料の充実を求めているのに対し、学部学生は教養教育関連図書(16.5%)の充実を求めている点が特徴となっている。

・あなたは、図書館の環境についてどう思われますか。

この設問に対する解答では、情報環境、空調、コピー機に対する不満が多くみられた。

情報環境については、図書館で利用できるパソコンの数が少ない(特に中央図書館)、プリンターが利用できないという不満が多かった。

これについては、図書館としても様々な努力を行っているところです。平成19年度には中央図書館に無線LANが整備される予定です。又、平成21年度には図書館の電算システムが更新されますので、ご利用頂けるパソコンが増設される見込みです。

空調については、空調がなかなか入らない、効きが悪いという意見が多く寄せられた。

これについては、図書館は多くの利用者が訪れる施設ですので、できるだけ柔軟な対応をしています。しかし、省エネ、キャンパス全体の電気使用量の関係で利用を制限せざるを得ない場合があります。利用者の皆様には、ご不便をおかけいたしますが、ご理解ご協力をいただきますよう改めてお願いいたします。

コピー機については、数が少ない、コピーカードが不便等の意見が多く寄せられた。

コピー機の数、配置等については、それぞれの利用状況をみながら、今後できるだけ利用者の皆様を使い易いように検討をしていきたいと考えています。

・あなたは、図書館の貸出冊数についてどう思われますか。

・あなたは、図書館の貸出期間についてどう思われますか。

貸出冊数、貸出期間については、学部生に不満、やや不満の回答が多くなっている。

・あなたは、図書館の開館時間についてどう思われますか。

・あなたは、図書館の開館日についてどう思われますか。

開館時間については、土日の開館時間、休業期の開館時間の延長を希望する意見が多く寄せられた。

開館日については、休業期の土日開館、日曜開館の拡大を希望する意見が多かった。

開館時間の延長、開館日の拡大については、今回のご意見を参考に、その有効性も考えながら検討したいと考えています。平成19年度後期には開館時間の延長を試行する予定です。

・あなたは、図書館の職員についてどう思われますか。

図書館の職員について、応対、知識、迅速性について質問をした。応対について、大学院生から不満、やや不満と感じているとの回答が合わせて20.6%寄せられた。

カウンター、電話等で応対する際には、今後ともより適切な応対を行なうよう努力していきたいと考えています。

・あなたは、次の図書館サービスを利用したことがありますか。

利用したことがある場合は、その感想を「大変良い」以下にチェックしてください。

図書館サービスでは、OPAC、一般的な利用案内、レファレンスサービス、文献複写、各種講習会、電子ジャーナル等が良く利用されている。これらのサービスの中では電子ジャーナルに対するやや不満、不満（合計18.4%）が多いが概ね良い評価が得られている。

今後もサービスの整備・充実を進めるとともに、より積極的なサービスの周知に努めていきたいと考えています。

・あなたは、図書館の広報（図書館報リエゾン、利用案内）を見たことがありますか。

見たことがある場合は、その感想を「大変良い」以下にチェックしてください。

広報を見たことがある割合は、教員（64.8%）、大学院生（37.0%）、学部学生（24.1%）となっており、利用者によって大きな差がある。

・あなたは、図書館のホームページ（パソコン・携帯版）にアクセスしたことがありますか。

アクセスしたことがある場合は、その感想を「大変良い」以下にチェックしてください。

図書館のホームページにパソコンからアクセスしたことがある人は全体の92.3%になっていて、非常に高くなっている。ホームページを通じてのサービス提供、広報の重要性が非常に大きくなっていることが良く分かる。

今後はホームページからの情報提供をより充実させるとともに、携帯版のホームページについてより周知を図る必要があると考えています。

今回のアンケートでは皆様から貴重なご意見を多数頂きました。これらのご意見は図書館職員全員で共有し、今後の図書館サービス充実のために有効に利用していきたいと考えています。

なお、図書館利用者アンケート報告書の全文は図書館ホームページの「図書館活動成果」からご覧いただけます。

URL : <http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/gaibuhyoka/enquete/200702.pdf>

広島大学図書館インターンシップ実施報告

江森 早穂

(学術情報普及グループ 情報ナビゲーション主担当)

図書館では平成18年度、初めて全学インターンシップの受け入れ先となり、2名の学生を迎えた。このインターンシップの目的は、

- (1) 広島大学図書館の業務を学習・体験することによって、図書館業務一般に対する理解を深める。
- (2) 図書館業務を理解することによって、職業意識の育成および仕事の達成感を学ぶ。

の2点である。以下がその実施報告である。

期 間：平成18年9月4日(月)～9月15日(金)

時 間：9:00～12:00、13:00～17:00

参 加 学 生：理学部3年男子学生Mさん
文学部3年女子学生Kさん

担 当 主 担 当：企画調整主担当、情報ナビゲーション主担当

スケジュール：各主担当で、それぞれの業務の説明を受け、実際に図書館業務を体験した。なおスケジュールは図書館資料の流れにそった形で構成され、最初は利用者に馴染みの深いカウンター業務からとした。事務的業務だけでなく、途中には研究開発室教員より図書館所蔵貴重資料についての講義を受けるなどの時間も盛り込まれた。また、「学生の受けたい図書館講習会・ガイダンスを企画する」など図書館側にとって学生の貴重な生の声を聞くための時間も含まれている。

ま と め：最終日15:00～16:30にインターンシップ懇談会として、図書館側（部長、課長、専門員、4主査）と参加学生の意見交換が行われた。

●参加学生の感想

- ・図書館の隠れた部分の仕事をすることができて嬉しかった。常に利用者の立場を考えるサービスの仕事であることを実感した。(Kさん)
- ・地道な作業ばかりでつらかったが、本の流れ、図書館の仕事の実態（汚れ仕事であることも含めて）が分かって有意義であった。(Mさん)
- ・期間は適当な長さであり、スケジュールとしては、資料の流れが分かる構成で良かった。
- ・時期については、適当だと思うが、早期に日程が決定していた方が都合がよい。またこの時期は司書講習の時期でもあるので、別の日程であれば両方参加できると思う。

●図書館側からの要望

- ・これからも図書館の理解者、館外のアドバイサーとして図書館支援者となってほしい。学生もこれを了承して、インターンシップの当初の目的を達成したものとして良いかと思う。

地域交流プラザ企画展示報告

長尾 真理子

(学術情報普及グループ 地域交流主担当)

展 示	主 催	開催期間	備 考
「原爆と峠三吉」原爆展	「原爆と峠三吉」原爆展を成功させる広島人会	平成18年 6/28～7/4	広島市のボランティア団体による「原爆展：原爆と峠三吉の詩」を開催した。被爆体験について聴く機会の少ない県外出身の学生に原爆について知ってもらい、被爆体験者との交流も深めてもらいたいとの企画であったが、地域住民や高齢者の方々の参加もあった。入館者数350人。
オープンキャンパス企画展示	図書館	8/3～4	標記事業に併せて行ないました。 ・〈絵〉でみる広島図書館コレクション ・中国五県土地租税資料文庫 検地帳など
2006年度INUセミナー協賛企画展示	図書館	8/7～9	標記事業に併せて行ないました。 ・「原爆と峠三吉の詩」原爆展のパネル20点 ・〈絵〉でみる広島図書館コレクション ・教育課程文庫 ・中国五県土地租税資料文庫 検地帳
国際学術シンポジウム Stylus（角筆）文献のみちびく世界—研究の現状と課題—（2006年11月13日 於 中央図書館ライブラリホール）	文学研究科、図書館共催	11/10～16	標記事業に併せて、関連資料の展示を行なった。
「おめざめモンスターズ Kurozumi Ryota 詩画作品展」	学生主催	11/18～12/1	詩画作品の展示により、東広島地域及び大学関係の人々に創作活動を知っていただき、ネットワークを構築することにより、今後の活動の反映と発展及び東広島の文化の発信地となることを希望して行なわれました。出品者は黒住亮太氏（教育学研究科D3）
「広島大学・教育・史資料コレクション展」	教育学研究科、図書館共催	平成19年 1/10～1/23	昨年度購入した外国教科書コレクションの「お披露目」を契機に、極めて膨大かつ貴重な本学所蔵教科書・教育関係図書コレクションの中から17世紀以来の代表的なものの展示をし、全体像をひろく学内外に提示し、利用していただくために教育学研究科（橋本伸也、磯崎哲夫両先生）のご尽力ご協力により行なわれました。入館者数425人。
「NHK日曜美術館30年展」記念展示	広島県立美術館「NHK日曜美術館30年展」、図書館協賛	2/15～3/25	「NHK日曜美術館30年展」記念展示と協賛で行ないました。
「広島かき」ミニ展示	地域連携センター、広島県水産海洋技術センター、図書館共催	3/19～3/30	地域社会から応募された課題から、本学の研究者が研究成果報告『浮力体分割により波浪性を高めかつ養殖作業性が高い養殖かき筏の開発』を展示をしました。工学研究科（土井先生）にご協力いただきました。

展示資料を募集しています。場所は中央図書館「地域交流プラザ」です。

図書館では、広島大学が進めている『社会貢献事業』を目に見える形で広報する場として、2005年7月に『地域交流プラザ』を新設しました。

教職員及び学生のみならずには、研究成果の発表、研究室の活動及び歴史等を地域の人々に情報発信する場として紹介していただき、地域の皆様には、図書館が地域社会の中でより身近な存在となり連携を強化するための地域文化活動、生涯学習活動の拠点として活用していただくことを希望しております。ご利用をお待ちしております。

お問い合わせ

学術情報普及グループ 地域交流主担当 内線：6207

E-mail：tosho-fukyu-chiki@office.hiroshima-u.ac.jp

図書館ホームページ→「利用案内」→「地域交流プラザの利用」をご参照ください。

講演会・シンポジウム等

平成18年8月以降、広島大学図書館が開催した講演会をご紹介します。学内外から多数のご参加を頂きました。

(講師等の所属は開催当時のものです。)

①広島大学図書館ワークショップ

「学術情報の新しいチャンネル —— 海外機関リポジトリの動向をさぐる ——」

開催日：平成18年8月28日(月)

報告 1 藤川功和 (広島大学図書館研究開発室)

「アメリカ西海岸における大学機関リポジトリの状況について」

報告 2 山中知美、首東誠 (広島大学図書館部学術情報整備グループ)

「アメリカ東海岸における大学機関リポジトリの状況について」

報告 3 北條充敏、中山千佳子 (岡山大学学術情報部情報管理課)

「オーストラリアにおける大学機関リポジトリの状況について」

報告 4 上田大輔 (広島大学図書館部学術情報整備グループ)

「北欧における大学機関リポジトリの状況及び広島大学学術情報リポジトリについて」

総括講演 位藤邦生 (広島大学図書館長)

②平成18年度広島大学大学院文学研究科国際学術シンポジウム (共催：広島大学図書館)

「スタイラス (角筆) 文献のみちびく世界 —— 研究の現状と課題」

開催日：平成18年11月13日(月)

公開討論会

- ・日本における角筆文献研究の現状と課題 (小林芳規)
- ・韓国における角筆文献研究の現状と課題 (南豊鉉)
- ・中世ヨーロッパにおける、尖筆によって書き込まれた注釈類のフェノメノン (諸現象) (Andreas Nievergelt)

事例研究

- ・広島大学角筆研究室蔵角筆文献の国語的研究 (松本光隆)
- ・広島大学図書館の角筆文献 (藤川功和)

③平成18年度国立情報学研究所教育研修事業国際シンポジウム (共催：広島大学図書館)

「求められる図書館サービスとスタッフ・ディベロップメント」

開催日：平成18年11月14日(火)

講演 1 Sue Dodd (ウプサラ大学、スウェーデン)

“Roles and Identity : Staff Development at Uppsala University Library”

講演 2 Liz Walkley Hall

“Staff Development in University Libraries in Australia”

講演 3 Chie Emslie

「ニュージーランドにおける大学図書館サービスと図書館職員の養成について」



④近世今中家と広島藩 ——『今中文庫目録』完成記念講演会

開催日：平成18年12月13日(水)

講演 1 藤川功和（広島大学図書館研究開発室助手）

「今中文庫を読む —— 今中大学とその周辺」

講演 2 中山富廣（広島大学文学研究科教授）

「今中家と広島藩政 —— 今中文庫C分類文書群を整理して」

講演 3 今中比呂志（広島大学名誉教授）

「今中家の歴史」余滴

⑤位藤邦生先生退職記念講演会「日記文学の探究」

（主催：広島大学大学院文学研究科日本文学研究室 共催：広島大学図書館）

開催日：平成19年2月9日(金)

⑥広島大学図書館学術講演会

「ハイブリッド・ライブラリーの構築をめざして —— 広島大学図書館における最近の研修及び開発事業から ——」

開催日：平成19年3月15日(木)

基調報告 位藤邦生（広島大学図書館長）

「ハイブリッド・ライブラリーの構築」

報告 1 藤川功和（広島大学図書館研究開発室）

「広島大学図書館研究開発室とその活動」

報告 2 庄ゆかり（広島大学図書館部学術情報整備グループ）

「モータンソンセンター Associates Program参加報告」

○留学生及び外国人研究員のための図書館サービスについての懇談会

開催日：平成18年11月14日(火)

参加者：Sue Dodd氏、Liz Walkley Hall氏、Chie Emslie氏、Andreas Nievergelt氏、ファンデルレーウ研究員、ファイルマン研究員、S.アームストロング講師（外国語教育研究センター）、留学生6名

玉岡賀津雄教授（留学生センター）、吉住課長、武田国際戦略プランナー、菅原主査（国際部）、位藤館長、細戸部長、白木課長、江森主査、尾崎主査、庄主任、西蘭（図書館部）

主要行事等報告（2006年6月～2007年6月）

行事等

- 18. 8. 3～4 広島大学オープンキャンパス
- 18. 9. 4～15 全学インターンシップ
- 18.10.31 国立公文書館アジア歴史資料センターデジタルアーカイブセミナー
- 18.11.30 消防訓練

館内会議等

- 運営戦略会議 18. 6. 7、18.10.11（文書会議）、19. 2. 2（文書会議）、19. 3. 5
- 事務連絡会議 18. 6.27、18. 7.25、18. 9.27、18.10.25、18.11.28、18.12.26、
19. 1.31、19. 2.28、19. 3.27、19. 4.24、19. 5.29、19. 6.26

会議等（学外）

- 18. 6.13 目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討WG海外調査
- 18. 6.21 平成18年度第3回日本医学図書館協会理事会（関西医科大学）
- 18. 6.22 国立大学図書館協会中国四国地区協会資格認定委員会（広島大学）
- 18. 6.22 中国四国地区国立大学図書館学術情報・図書館・情報環境部長等会議（広島大学）
- 18. 6.23 広島県大学図書館協議会総会（広島経済大学）
- 18. 6.28 第2回国立大学図書館協会マネジメントセミナー（学術総合センター）
- 18. 6.29 第53回国立大学図書館協会総会（学術総合センター、一橋大学）
- 18. 7. 3 平成18年度大学図書館職員長期研修（筑波大学）
- 18. 7. 4 エルゼビア・ライブラリ・コネクトセミナー（千里ライフサイエンスセンター）
- 18. 7.12 平成18年度次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業委託事業説明会（NII）
- 18. 7.20 国立大学法人等部長級研修（学術総合センター）
- 18. 7.21 目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討WG会合（NII）
イリノイ大学モータンソンセンターでの研修に関する打合せ（京都大学）
- 18. 7.26 学術ポータル担当者研修（NII）
- 18. 7.28 国際シンポジウム準備委員会（大阪大学）
- 18. 8. 1 医学図書館員基礎研修会（慶應義塾大学）
- 18. 8. 2 目録システム地域講習会（山口大学）
機関リポジトリ意見交換会（北海道大学）
- 18. 8. 9 目録システム（図書）講習会（業者向け）見学（NII）
- 18. 8.10 目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討WG会合（NII）
地区コンソーシアム懇談会（広島大学）
- 18. 8.20 IFLA2006 SEOUL (COEX Convention and Exhibition Centre)
- 18. 8.30 学術ポータル担当者研修（名古屋大学）
- 18. 9. 6 The FALL 2006 Associate Program（イリノイ大学）
- 18. 9.14 ILLシステム地域講習会（広島大学）
- 18. 9.19 広島県大学図書館協議会第2回研修会（近畿大学工学部）
- 18. 9.20 目録システム（雑誌）地域講習会（岡山大学）
- 18. 9.25 平成18年度総合目録データベース実務研修（NII）

18. 10. 6 九州大学学術情報セミナー（九州大学）
18. 10. 11 学術情報リテラシー教育担当者研修（大阪大学）
18. 10. 12 デジタルコンテンツ・プロジェクト会議（筑波大学）
18. 10. 13 大学出版システムについての打合せ（NII）
国立大学図書館協会人材育成委員会採用班会議（東京大学）
18. 10. 17 平成18年度大学図書館職員講習会（京都大学）
18. 10. 18 国立大学図書館協会中国四国地区協会資格認定委員会（広島大学）
18. 10. 19 第47回中国四国地区大学図書館研究集会（島根大学）
18. 10. 20 日本医学図書館協会理事会（東京慈恵医科大学）
18. 10. 24 目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討WG会合（NII）
18. 10. 26 第92回全国図書館大会岡山大会（第2分科会：大学・短大・高専図書館）
国立大学図書館協会総務委員会（東北大学）
国立大学図書館協会人材委員会（東北大学）
国立大学法人等職員採用図書系専門試験委員会（東北大学）
国立大学図書館協議会理事会（東北大学）
18. 10. 27 広島県大学図書館協議会研修企画委員会（広島修道大学）
18. 10. 30 中国四国地区実務担当者会議（岡山大学）
広島県内大学図書館共同リポジトリ構築実験プロジェクト第1回ミーティング
18. 11. 6 中四国地区国立大学図書館所管部課長会議（岡山大学）
18. 11. 8 学術情報リテラシー教育担当者研修（NII）
18. 11. 9 日本医学図書館協会中国・四国地区総会（高知大学）
米国大学図書館調査（Michigan Univ. Library）
18. 11. 15 平成18年度NII教育研修事業国際シンポジウム：求められる図書館サービスとスタッフ・ディベロップメント（大阪大学）
18. 11. 16 日本のリポジトリの今2006：共同ワークショップ（千葉大学）
18. 11. 17 平成18年度NII教育研修事業国際シンポジウム：求められる図書館サービスとスタッフ・ディベロップメント（東北大学）
18. 12. 1 目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討WG会合（NII）
18. 12. 4 中国四国地区事業委員会電子化対応事業（E）グループ関連実務者会議
18. 12. 6 広島県内図書館連絡会議（広島県立図書館）
18. 12. 7 国公立大学図書館協力委員会主催シンポジウム：デジタルコンテンツの創造と発見（慶應義塾大学）
18. 12. 8 広島県大学図書館協議会第4回研修会（広島修道大学）
18. 12. 18 機関リポジトリ、e-サイエンス、および学術コミュニケーションの将来に関する国際シンポジウム（NII）
18. 12. 20 国立大学図書系幹部職員の人事制度に関するWG（大阪大学）
18. 12. 25 日本医学図書館協会総務会（日医図協中央事務局）
19. 1. 10 目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討WG会合（NII）
E-repository ユーザー会（大阪大学）
19. 1. 17 日本古典籍講習会（国立国会図書館）
19. 1. 29 第2回広島県内大学共同リポジトリプロジェクト（HARP）打合せ（広島経済大学）
19. 2. 1 平成18年度国立大学図書館協会中国四国地区協会事業委員会総会（鳥取大学）
19. 2. 7 平成18年度目録システム／ILLシステム講習会担当者会議（NII）

- デジタルコンテンツプロジェクト会議（筑波大学）
19. 2. 8 デジタルリポジトリ連合（DRF）第2回ワークショップ（早稲田大学）
19. 2. 20 愛媛大学学術講演会（愛媛大学）
19. 2. 21 目録所在情報サービスを対象とする講習会等に関する検討WG会合（NII）
19. 3. 6 国立大学協会総会
19. 3. 20 広島県図書館サービス連絡会議：来いぶらりネット運用会議（広島県立図書館）
19. 4. 13 日本医学図書館協会拡大総務会（医図協中央事務局）
19. 4. 19 第55回中国四国地区大学図書館協議会総会（岡山大学）
19. 4. 20 第34回国立大学図書館協会中国四国地区協会総会（岡山大学）
日本医学図書館協会理事会・評議員会（東京慈恵医科大学）
19. 4. 26 INU Mini Conference（La Trobe University）
19. 4. 30 図書館交流協定についての打ち合わせ（Flinders University Library）
19. 5. 11 広島県大学図書館協議会幹事館打ち合わせ（広島経済大学）
19. 5. 18 国立大学図書館協会理事会（東京大学）
国立大学図書館協会図書系専門試験委員会（東京大学）
国立大学図書館協会理事会（東京大学）
国立大学図書館協会情報交換会（東京大学）
19. 5. 21 目録システム講習会（図書コース）模擬演習（NII）
19. 5. 28 目録システム講習会（雑誌コース）模擬演習（NII）
19. 5. 31 日本医学図書館協会総会（大宮）
19. 6. 8 広島県大学図書館協議会研修企画委員会（広島大学）
広島県大学図書館協議会幹事館連絡会議（広島大学）
19. 6. 14 丸善講演会（広島）
19. 6. 20 平成19年度第1回国立大学図書館協会中国四国地区資格認定委員会（広島大学）
中国四国地区国立大学図書館学術情報・図書館・情報環境部長等会議（広島大学）
19. 6. 27 第3回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー（福岡）
19. 6. 28 国立大学図書館協会総会（福岡）
平成19年度目録システム地域講習会講師に伴う事前打ち合わせ（NII）

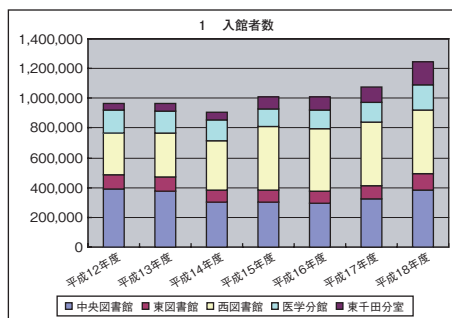
来訪者・見学者（来訪順）

Orenburg State University学長、アジア歴史資料センター次長補佐、調整専門官、小林名誉教授、吉澤名誉教授、韓南大学校、済美高等学校（13名）、済州大学、大阪大学、お茶の水女子大学、兵庫教育大学、JICA研修員（モンゴル、ラオス日本センター図書室）、INUメンバー館、オーストラリア大使館パトリック・クレメン氏、鈴峯女子高等学校、首都師範大学、東京大学、アフガニスタン視察団一行（35名）、フルブライトメモリアル基金アメリカ人教育者、国立教育政策研究所、和田由美子氏、呉公民館渡部氏、福田寛氏、広島国泰寺高等学校（20名）、国立国会図書館、実践女子短期大学石川亮教授、大阪教育大学、鹿児島大学、富山大学、上越教育大学、黒澤節男氏、中国河南省10大学長一行、Naiyana Janjirasakul（St. Louis College, Bangkok）

広島大学図書館統計

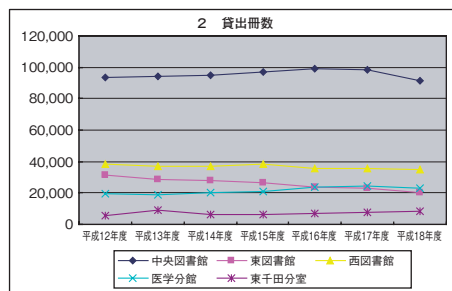
1 入館者数

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
中央図書館	387,846	378,261	298,582	298,810	293,405	326,966	386,372
東図書館	96,535	91,913	84,714	86,232	85,926	84,628	108,278
西図書館	281,888	297,733	329,627	423,767	416,297	429,372	429,052
医学分館	153,966	149,330	145,019	121,231	122,059	133,778	168,632
東千田分室	41,767	48,575	48,510	78,763	93,847	102,147	153,974
計	962,002	965,812	906,452	1,008,803	1,011,534	1,076,891	1,246,308



2 貸出冊数

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
中央図書館	93,632	93,952	95,034	97,263	99,006	98,698	91,538
東図書館	31,102	28,744	28,022	26,798	23,807	23,073	20,414
西図書館	38,224	37,322	36,757	38,382	35,353	35,725	34,585
医学分館	19,542	18,668	20,155	20,955	23,879	24,377	22,998
東千田分室	5,582	9,225	6,206	6,614	7,056	7,947	8,072
計	188,082	187,911	186,174	190,012	189,101	189,820	177,607

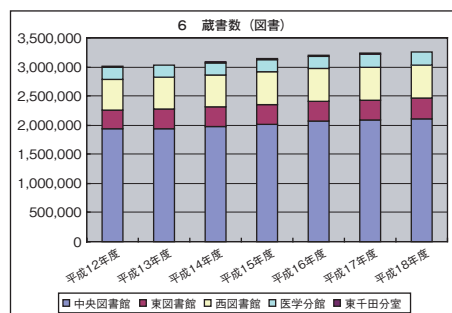


3 参考調査

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
中央図書館	6,775	6,790	8,555	9,552	12,990	9,711	11,459
東図書館	3,328	2,816	2,827	2,860	2,849	2,279	2,917
西図書館	5,024	4,706	3,135	3,166	4,304	3,442	3,438
医学分館	4,832	4,928	5,027	4,854	5,029	5,145	4,631
東千田分室	662	804	1,012	1,417	3,025	3,161	2,754
計	20,621	20,044	20,556	21,849	28,197	23,738	25,199

4 文献複写(相互利用(受付・依頼))

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
中央図書館(受付)	6,651	5,776	5,290	7,531	7,261	5,387	4,117
(依頼)	8,566	6,727	5,752	6,335	5,172	5,566	6,835
東図書館(受付)	4,480	4,471	2,602	2,208	2,319	1,028	748
(依頼)	3,370	2,688	1,903	1,853	788	1,067	1
西図書館(受付)	3,629	3,515	3,176	2,669	2,192	769	703
(依頼)	2,135	2,474	1,858	1,305	1,107	808	0
医学分館(受付)	7,055	7,341	6,754	6,252	5,059	4,173	3,221
(依頼)	7,593	5,618	5,748	4,264	3,508	3,609	3,745
東千田分室(受付)	1	71	140	146	74	63	44
(依頼)	187	221	333	640	1,263	1,001	969
計(受付)	21,816	21,174	17,962	18,806	16,905	11,420	8,833
(依頼)	21,851	17,728	15,594	14,397	11,838	12,051	11,550



5 相互貸借(貸出・借受)

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
中央図書館(貸出)	1,788	1,800	649	922	915	1,115	1,115
(借受)	1,379	1,592	1,348	1,308	1,342	1,394	1,599
東図書館(貸出)	188	190	67	63	104	56	133
(借受)	73	55	51	62	142	69	106
西図書館(貸出)	388	341	352	423	357	376	409
(借受)	250	203	219	182	358	368	341
医学分館(貸出)	72	73	76	120	129	177	133
(借受)	264	196	218	190	350	426	472
東千田分室(貸出)	35	160	151	172	161	229	199
(借受)	46	344	354	461	504	796	707
計(貸出)	2,471	2,564	1,295	1,700	1,666	1,953	1,989
(借受)	2,012	2,390	2,190	2,203	2,696	3,053	3,225

6 蔵書数(図書)

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
中央図書館	1,929,170	1,944,983	1,981,177	2,015,835	2,062,525	2,087,915	2,114,475
東図書館	321,677	326,165	330,280	333,473	337,786	341,942	346,393
西図書館	533,815	542,197	549,504	558,993	564,325	569,763	574,515
医学分館	202,091	207,208	212,501	206,905	213,789	216,993	221,596
東千田分室	16,708	17,456	17,080	18,620	20,761	22,347	24,423
計	3,003,461	3,038,009	3,090,542	3,133,826	3,199,186	3,238,960	3,281,402

7 蔵書数(雑誌)

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
中央図書館	30,093	30,303	30,163	32,206	32,224	32,545	33,090
東図書館	9,121	9,187	9,355	9,898	9,693	9,814	9,957
西図書館	3,881	3,930	4,019	4,250	4,260	4,263	4,299
医学分館	8,473	8,568	7,940	8,287	8,357	8,511	9,363
東千田分室	239	251	318	377	430	453	546
計	51,807	52,239	51,795	55,018	54,964	55,586	57,255

8 蔵書数(電子ジャーナル)

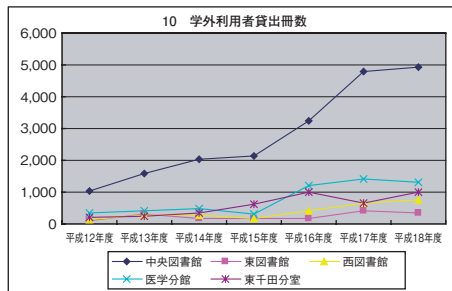
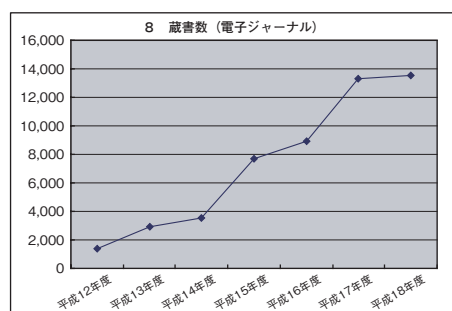
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
計	1,381	2,955	3,521	7,662	8,910	13,323	13,510

9 電子ジャーナル利用統計(対象は国立大学図書館コンソーシアムの主要出版社のみ)

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
タイトル数(種)	3,240	4,116	4,404	4,415	5,390
Full Textダウンロード件数	209,877	374,569	435,318	560,986	582,007

10 学外利用者貸出冊数

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
中央図書館	1,041	1,600	2,027	2,135	3,230	4,776	4,929
東図書館	91	321	168	184	168	406	345
西図書館	135	281	282	179	423	665	747
医学分館	328	421	481	311	1,210	1,406	1,297
東千田分室	195	248	340	629	1,017	662	984
計	1,790	2,871	3,298	3,438	6,048	7,915	8,302



トピックス

★オープンキャンパスに約2,300名（高校生、父兄）が来館。（06. 8. 3～8. 4）

図書館紹介ビデオ上映、ライブラリーツアー、中央・東・西図書館を巡るスタンプラリーなどの催しがあり、全来館者数、スタンプラリー完了者数ともに例年の4～5倍の盛況となった。

★図書館インターンシップ生として、男女2名の学生を受け入れた。（06. 9. 4～9. 15）

平成18年度から、初めての試みとして実施され、図書館業務全般を体験、実習した。

19年度以降も実施予定。

（詳細は16頁）

★「国立公文書館アジア歴史資料センターデータベースデモンストレーション」を開催。

（06. 9. 28）

国の機関が所蔵しているアジア歴史資料のデジタルアーカイブの利用促進のためのデモンストレーション。

★今中文庫ホームページ開設。（06. 12. 12）

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/ib/top.html>

今中文庫の資料群のうち、主なものの画像と解説からなっている。

★「今中文庫目録」刊行。（06. 12. 20）

（詳細は8頁）

★「図書館メールマガジン」（トライアル版）1号を発行。（07. 1. 4）

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/mailmagazin/top.htm>

年1回の「リエゾン」だけでは、利用者のニーズに即した情報は提供できない、との趣旨で、年4回程度のメールマガジンをトライアルとして発行することとなった。2号は4月5日に、3号は7月13日発行。

なお登録を御希望の方は下記アドレスにお申込下さい。

toshofukyu-navi@office.hiroshima-u.ac.jp

★図書館利用者アンケートを実施。

（07. 1. 10～2. 9）

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/gaibuhyoka/enquete/200702.pdf>

利用者の図書館に対するご要望を聞き、今後のサービス向上に役立てるため、Web上でアンケートを実施。結果はWeb上で公表。

（詳細は14頁）

★コースリザーブサービスを試行。（07. 3）

<http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/topics/course-reserve.htm>

授業の理解を深めるような資料を、予め教員が依頼して図書館に揃えて置き、学生が利用しやすくするようなサービス。

（詳細は9頁）

★情報メディア教育研究センター「情報活用基礎」実習授業の一部を図書館が9回担当。

（07. 4. 27～6. 29）

この授業の教科書「情報化社会への招待」第7章「図書館と情報探索」を執筆。

広島大学図書館「リエゾン」 Vol.32 2007年7月31日 発行

発行 広島大学図書館 〒739-8512 東広島市鏡山1丁目2-2

電話 (082)424-6200

編集 広島大学図書館広報委員会